

多文化共生通信

神奈川県立磯子工業高校
地歴公民科教諭 芝 健司

昨年夏に国際協力機構(JICA)の教員研修に参加しました。「多文化共生と移民」というテーマで、ブラジルで学んできました。その一部を生徒の皆さんにお伝えしたいと思います。

Major arcy 州立学校

- ☐ 公立の中高一貫校
- ☐ 地理の授業を見学
- ☐ 教師の講義と生徒の調査の様子を見学
- ☐ 日本と同様に端末を活用する時間も
- ☐ 主にヨーロッパ・アフリカ・日系移民の子どもが在籍：先住民の子どもは？



ECCOS学園

- ☐ 私立の小中高一貫校
- ☐ 小学校では希少動物を扱い、日本のオオサンショウウオが教科書に載っており、ブラジルの子どもたちが学習
- ☐ 中学校では時差をテーマに日本のあなたの家族は何をして過ごす時間が質問を受けた



アマゾンでの暮らし

- ☐ 海のように雄大なアマゾン川
- ☐ 昔ながらの生活と、近代技術が融合→木登りで木の実を取って食べ、日本製のバイクに乗って移動し、スマホで連絡
- ☐ ナマズなど魚をフライにして食べる文化→とても美味しかったです！



ヴィラ・ドス・レメディオス交番

- ☐ 日本の交番制度を治安維持のために採用
- ☐ 交番というより警察署くらいの大きさ
- ☐ 軍警察という組織が運営
- ☐ 地域の人に柔術を教えたり、畑で野菜をつくって、困窮する人に配給する活動も
- ☐ 通信アプリを使って学校・病院と連携



多文化共生の定義として、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(総務省,2006)と示されています。私たちが訪れた多くの場所で様々なルーツをもつ人が上記の多文化共生を実現しているように思われました。しかし、ブラジルはジニ係数という貧富の格差を示す値が世界でもっとも大きい国のひとつです。日本よりはるかに多い路上生活者の人々(直接お話もできていません)を目にし、経済的な困難に直面する人々を置き去りにしているように私には感じられました。格差の解消が重要なキーワードだと私は捉え、その実現のために教育は大きな役割を果たすと考えています。

学校における多文化共生

学校でどのように多文化共生を実現していけるのだろうか？

- 「国内移民」という見方・考え方もあります。兵庫県出身の私も「移民」であり、移住した神奈川で接する人々に受け入れられた(と思っている)ことを幸せに思っています。私たちの先祖をたどれば、移住していない人などいないと思われそうです。
- 学校において、たとえ違いがあってもそれを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていけると素晴らしいと思います(現実社会が複雑で単純でないことも理解しています)。